

平成30年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	麻生区第2グループ(王禅寺・虹ヶ丘・柿生)	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H29	H30	H29	H30		
	1 王禅寺こども文化センター ①年間延べ利用者数	17,047人	17,721人	②年間延べ利用団体数	153団体	131団体
	2 王禅寺中央小学校わくわくプラザ ①登録者数	263人	257人	②年間延べ利用者数	12,941人	12,682人
	3 東柿生小学校わくわくプラザ ①登録者数	211人	236人	②年間延べ利用者数	12,470人	12,822人
収支実績	単位:円					
	1 収入 指定管理料	132,755,274				
	2 支出 人件費	106,017,840				
	管理費	9,431,377				
事務経費	5,667,025					
その他経費	7,080,689					
合計	128,196,931					
3 差引	4,558,343					
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。					

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全な育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・グループ合同で新たに、館対抗の「運動会」を実施し、スポーツを通して、グループ内各館の交流に取り組んだ。 ・王禅寺こども文化センターでは、新たな取組として、いこいの家との連携により、「おばあちゃんと作って食べようお昼ごはん2018」を、地域の協力により、「王禅寺食堂」を実施し、食事を通じて幅広い世代の交流を図った。また、小学生女子の意見を取り入れ、「百人一首大会」を、その他に、「運動会」、「こ文に泊まるう」や「おと絵がたり」など、新たな事業などに積極的に取り組んでいる。 ・虹ヶ丘こども文化センターでは、地域ままり支援センターのほか、近隣の保育園、特別養護老人ホームと連携し、「ムーブメントであそぼう」を実施し、多世代交流を図った。 ・柿生こども文化センターでは、中高生の子ども運営委員を募集し、行事等で活躍できる機会を提供するなど、中高生の利用促進に取り組んだ。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	5	5
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	3	6
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通して、利用者ニーズ把握に努めたほか、苦情等への対応も適切に行われている。 ・特別な配慮を要する児童への対応について、学校や保護者、職員全体で情報共有を行うとともに、障害児対応研修を受講するなど、職員の資質向上に努めている。具体例として、障害のある児童の受入にあたり、対象児童の受診に同行して医師の助言を仰ぎながら、丁寧な対応ができる体制を構築した上で関係者全員で共有し、体調や栄養・水分の摂取状況等について毎日学校と共有し、保護者との情報共有も適宜行うなど、組織的な対応が行われている。 ・学校及び行政機関との連携について、学校施設開放委員会や学校行事、子ども会のお祭り等への参加するなど、関係機関との連携強化を図っている。 ・施設・事業の広報について、ホームページやおたより等多様な媒体を用いて積極的な広報を行っている。また、旧中学校区に着目し、王禅寺・白土・虹ヶ丘の各こども文化センター合同で、中高生だよりを、各学校に配布するなど、グループの枠を超えた、独自の工夫がなされている。 ・運営協議会の実施については、運営協議会が設置され、事業計画どおりに開催されている。 ・保護者懇談会について、懇談会が事業計画どおりに開催されている。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 ・職員の研修体制については、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化して管理し、職員が閲覧できる等、共有化の仕組み作りができています。また、区合同研修として、看護師を講師に招いて「子ども応急箱〜けが・病氣別対処法〜」研修を開催し、ケガや乳幼児の誤飲等の具体的な対処法を学び、職員の資質向上が図られた。さらに、グループ合同研修として「ワークショップ研修」を実施し、日頃子どもたちが遊ぶ内容を、実際に体験しながら学ぶことで、職員の資質向上が図られた。 ・個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	4	4
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の保守管理については、子ども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。 ・利用者の安全確保については、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行っている。また、事故事例研修を実施したり、館長会議で提供された他施設の事故事例を検証したり、ヒヤリハット事例の話合いを行うなど、各館でそれぞれ、事故事例の検証や共有の取組を行っている。さらに、柿生子ども文化センターでは、警備会社から講師を招き、新たに防犯研修を実施するなど、安全確保体制の充実に取り組んでいる。 ・防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
		「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 ・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	66	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

市内20グループの子ども文化センター及びわくわくプラザの指定管理を行うスケールメリットを活かし、効率的・効果的な事業運営を行っている他、全館・全区合同事業の実施、経験や役割に応じた計画的な研修実施によって職員の資質向上を図り、また研修内容・事故状況等の情報を全館で共有するなどにより、安定的で良質なサービス提供を行っている。

また、柿生子ども文化センターでは、事務室前に机と椅子を設置して、来館した中高生が気軽に職員と気軽にコミュニケーションを取れるようにすることで、日々の悩みなどに丁寧に傾聴する取組を続けている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもの顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。また、子ども文化センターの利用者数が前年度に比べて減少していることから、乳幼児の利用増加に繋がる取組をより積極的に行うこと。また、学校及び行政機関、地域の団体等の連携については、新たな主体との連携に取り組んだり、地域課題を共有しながら効果のある取組を積極的に行うことが望ましい。